

いずれは春に

中野 優

私ごとで恐縮だが、私の出身は栃木県で、千葉県にある大学に進学した。そして、縁あって約 30 年前に新潟大学に赴任した。赴任当時は、曇天や暴風雪の続く新潟の冬の気候にたいそう驚いたものである。この気候にはなかなか慣れることができず、現在でも冬には鬱々とした気分になる。もうひとつ驚いたことが、春の素晴らしさである。3月中旬頃になると、冬の厳しい気候も一段落し、急に春めいた陽気になる。4月になると、野山にはオオミスミソウ（ユキワリソウ）・ニリンソウ・カタクリ等が、街にはウメ・サクラ・レンギョウ・チューリップ等が一斉に咲き出す。この冬から春への劇的な変化は感動ものである。冬に晴天が続く、冬と春の切り替わりが不明瞭な関東地方では、到底味わうことができない。私の専門が農学の中の園芸学、特に花き園芸学ということもあり、毎年春になると、見学会と称して学生を連れて野山・公園・生産農場等に様々な花を観に出かけている。

さて、現在は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、感染症の収束が見通せない状況である。そのため、新潟大学における多くの授業が非対面（オンライン）で行われている。実験・実習等の一部については、十分な感染症対策を講じたうえで対面式の授業も行われるようになったが、全面再開はしばらく困難であろう。大学教育に関して、今は冬の時季である。しかしながら、この冬の状況を嘆いてばかりはられない。不幸中の幸いではあるが、オンライン講義を行う中で、その利点がいくつかわかってきた。あくまでも個人的な感想であるが、学生が自宅や遠隔地から授業に参加できる（新潟のように冬の気候が厳しい場合は特に都合が良い）、事前に配布された資料で学生が予習できる、チャット機能等を用いることで学生が質問しやすい等があげられる。さらに、オンデマンドということになれば、いつでも・どこでも・何回でも講義を視聴することができる。これらの点に関すれば、コロナ禍が過ぎた後もオンライン講義を大いに活用すべきであろう。大学教員は、オンライン講義でいかに学生に興味を持ってもらえるか、いかに理解してもらえるか等を考え、講義のスキルを磨く必要がある。一方、新型コロナウイルスは、授業ばかりでなく、サークル活動や学生同士の交流等にも深刻な影響を及ぼしている。大学生活におけるコミュニケーションの不足は、大学における学生の孤立化につながる可能性もある。今年度（2020年度）入学生の中には、入学後ほとんどキャンパスを訪れていない学生もいると聞いている。このような状況下で、学生のメンタルをケアするシステムも必要になるであろう。

冬の後には必ず春が来るものである。コロナ禍による大学教育の冬も、いずれ春になるであろう。前述の『新潟の春』のような素晴らしい春がきますように……